

## 感染症情報 7月15日～21日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①手足口病	1,184例(堺市	53例)
②感染性胃腸炎	745例(堺市	47例)
③ヘルパンギーナ	373例(堺市	26例)
④溶連菌感染症	354例(堺市	45例)
⑤伝染性紅斑	255例(堺市	34例)

府下インフルエンザ定点301医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	26例(堺市	1例)
---------	--------	-----

感染症報告数は前週比19.0%減の3,326件であった。

報告数の第1位は手足口病で、以下感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、溶連菌感染症、伝染性紅斑の順であった。

手足口病は府下で前週と比較して30%減、堺市で56%の大幅減であった。府下の定点当たりの報告数は8.57→6.01になった。感染性胃腸炎は府下で14%減、堺市では8%減であった。ヘルパンギーナは府下で14%減、堺市で33例→26例(21%減)であった。溶連菌感染症は府下で23%減、堺市で51例→45例の12%減となった。伝染性紅斑は府下で19%増、堺市で24例→34例(42%増)であった。なお、ランク外で第6位のRSウイルス感染症が府下で3週連続増加の140例になってきている。

麻疹が府下で1例(堺市はなし)の報告があり、年始からの累計が145例となった。風疹も府下で1例(堺市はなし)の報告があり、年始からの累計が120例になった。